

第 3 号様式

(第 1 面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 541-0051
住 所 大阪市中央区備後町二丁目1番8号
氏 名 新日本理化株式会社
代表取締役社長 藤本 万太郎 印
(代理人) 川崎工場長 布 美博
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第 1 0 条第 1 項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	新日本理化株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区浮島町 7 番 2 号		
該当する事業 者の要件	☒ 規則第 4 条第 1 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 2 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 3 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 4 号該当事業者		
	☐ 上記以外の事業者（任意提出事業者）		
主たる事業 の種類	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	可塑剤、酸無水物の製造		
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量		1,513 k l
	☐ 自動車の台数		台
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	川崎工場
		所在地	川崎区浮島町 7 番 2 号
	電話番号		0 4 4 - 2 8 8 - 3 2 7 5
	F A X 番号		0 4 4 - 2 9 9 - 1 9 7 2
	メールアドレス		webmaster@nj-chem. co. jp
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成25年度 ～ 平成27年度 (報告年度平成26年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	別添 指針様式第2号のとおり

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 3,235 t-CO ₂ (調) 3,234	(実) 3,123 t-CO ₂ (調) 3,122	(実) 3,291 t-CO ₂ (調) 3,289	(実) t-CO ₂ (調)	(実) 3,203 t-CO ₂ (調)
削減率		(実) 3.5 % (調) 3.5	(実) -1.7 % (調) -1.7	(実) % (調)	(実) 1.0 % (調)

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	生産量		単位	t-CO ₂ /t	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	0.1787	0.1736	0.1730		0.1733
削減率		2.9 %	3.2 %	%	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	不要な保温蒸気の停止、機器の停止、こまめな消灯などを実施した結果、基準年度に対し生産量は0.6%減少したものの、温室効果ガス排出量3.5%削減、温室効果ガス排出量に係る原単位2.9%削減となった。
第2年度	生産量増加に伴い(対基準年度:5.1%増、対1年度:5.7%増)、温室効果ガス排出量増加(対基準年度:1.7%増、対1年度:5.3%増)。ただし、第1年度実施事項の継続により温室効果ガス排出量に係る原単位3.2%減を達成。
第3年度	

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)	計 画	○ 冬季チリングユニット停止での設備運転によるエネルギーロス改善 ○ 蒸気供給の管理 ○ スチームトラップの保全管理 ○ 事務棟等の空調調和管理、及び更新 ○ 加熱等の工程管理 ○ 熱媒体等の漏えいに係る保全管理
	第 1 年度	○ 冬季チリングユニット停止での設備運転によるエネルギーロス改善継続 ○ 停止設備の保温蒸気停止管理によるエネルギーロス改善継続 ○ スチームトラップ診断他管理強化によるエネルギーロス改善 ○ 設置20年以上のエアコンを順次省エネタイプ更新 ○ 生産活動において待ち時間の短縮、稼働の平準化を実施 ○ 老朽化したフランジ、バルブ、配管を定期的に保守点検を実施し更新
	第 2 年度	○ 蒸気ドレンの廃熱回収の管理 - ライン変更・設備撤去による廃蒸気の有効利用を実施
	第 3 年度	
自動車等 (第 3 号該当者等)	計 画	
	第 1 年度	
	第 2 年度	
	第 3 年度	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

現状では対応が難しく、今後の課題として情報収集に努める。

イ 計画期間の再生可能エネルギー源等の利用実績

[illegible]

ウ 計画期間の再生可能エネルギー源等の価値の保有実績

[illegible]

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	無し
第1年度	無し
第2年度	無し
第3年度	

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	1. 環境マネジメントシステムを活用し廃棄物排出量削減に向けた目標管理活動、および 3 R (Reduce、Reuse、Recycle) 活動を推進します。 2. 有害化学物質の把握・管理を強化して、排出物の削減を行います。 3. 省エネ・環境教育を実施します。 4. 工場と拠点間輸送に大型化とモーダルシフトの推進を行います。
第1年度	1. 環境マネジメントシステムを活用し廃棄物排出量削減に向けた目標管理活動、および3 R (Reduce、Reuse、Recycle) 活動を継続。
第2年度	1. 環境マネジメントシステムを活用し廃棄物排出量削減に向けた目標管理活動、および3 R (Reduce、Reuse、Recycle) 活動を継続。
第3年度	

様式第 2 号

(第6面)

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	3,389	t-CO ₂
(調)	3,376	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位（第 1 号、第 2 号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎工場	川崎区浮島町 7 番 2 号	1631	石油化学系基礎製品製造業	3,389 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等単位（第 4 号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--